



# —五十周年を機に同窓会をさらに活性させよう!!—



〒177  
東京都練馬区関町北  
4-32-48  
石神井高校同窓会

## 半世紀を経て、

## より太い糸づくりを

高橋 勇

### ○五十周年記念行事を

盛大裡に了えて

昭和十五年（一九四〇年）一月に、「東京府立第十四中学校」として設置認可された母校の都立石神井高校が、激動の昭和時代を越えて半世紀の足跡を刻んで来ました。本来は平成一年が五十周年に当たるのですが、体育馆等の増改築落成披露を兼ねて、平成四年十一月七日（土）に記念行事が行われました。午前中は学校主催の記念式典、午後から同窓会主催で総会を兼ねた祝賀会が盛大に挙行されました。

はからずも同窓会の実行委員長を大蔵会長から委嘱されて、多くの方々の協力で「記念テレビカード」の発行、旧師をおこなう事が出来ました。

○新たな進展をめざす

祝賀会等に参加された旧師や会員の方々から「これを契機に同窓会を一層活性化させよう。」と、

いう声がありました。

同窓会は企業体活動とは異なる上に、会員数は一八〇〇〇名を越え、年齢構成も六十年代から十代まで幅広く、当然とも言える価値観の相違やら居住地の拡散やらが在り、「口で言う程活性化は容易なことではありません。

しかし、難しさを横にして手をこまねいていては前進しません。以下、いくつかの事を提言しつつ、実践へと取組みます。

### ☆其一、同窓会名簿の発行

まず、母校「石神井」の卒業生であることの確認が第一歩です。そのため、同窓会名簿を発行することにいたしました。

当初投資や有志会員の方が資料収集や会員把握に努力して下さいましたが手に負えません。

そこで、今は株式会社「サラト」と出版契約を結んで平成六年六月末に発行することになりました。

本年七月頃より会員把握に着手致しますので、会員各位の御協力をお願いいたします。

委員会	恭武	協力	勇裕
内山	山口	行橋	賀下間
出発	千山	高千	本井

会社や役所、大学等でも何気ない会話の中から「お前も石神井の卒業生か」と、相互の親近感を深めたり信頼を得たりした事例を聞きます。

これを一步進めて、発行され同窓会名簿により「先輩には誰さんが居る」「誰は後輩だったのか」と、石神井の糸を結び直してもらうことを願っています。

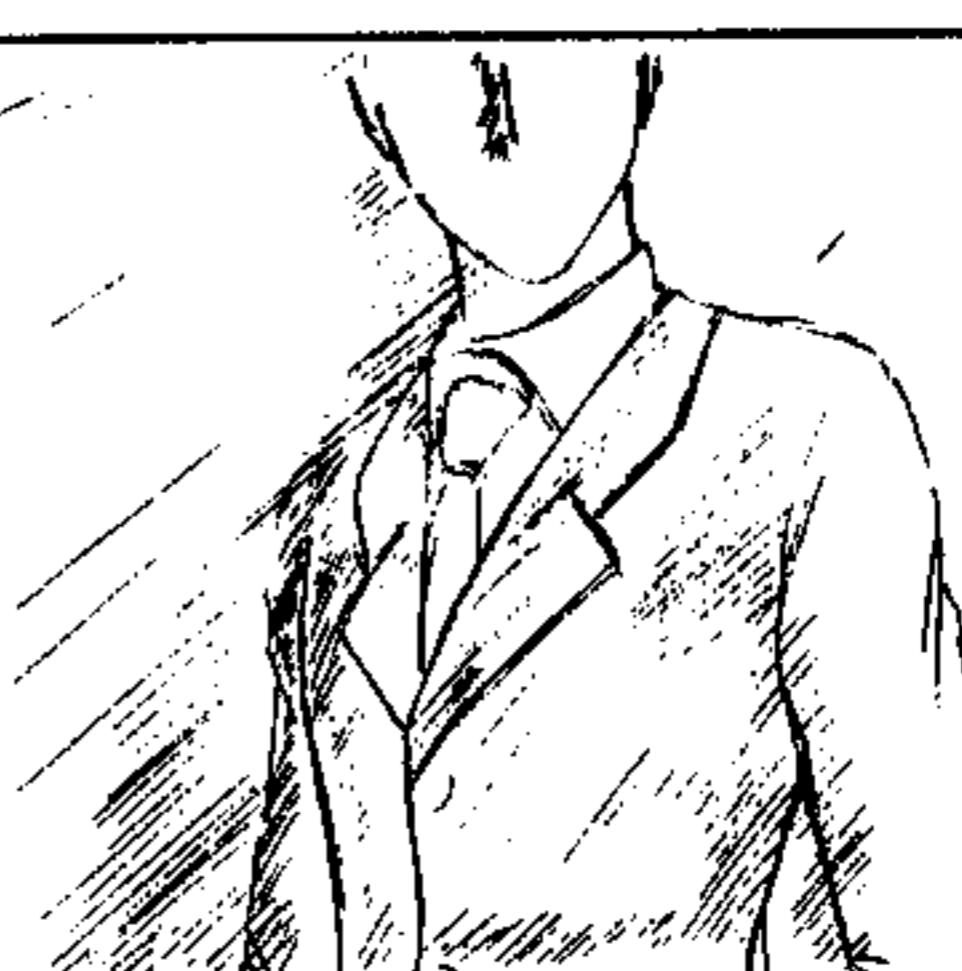
### ☆其二、連携と組織化

現在の同窓会は正直などころ、昔手の役員の方や一部の会員の手で細々と、しかし精一杯、会を支えています。

また反面、同期会やサークル集会等を毎年のように開いて氣勢をあげている石神井生のことも目にします。

そこで、それ等で活躍されている任話人や幹事の方にお願いします。活動の状況や名簿を同窓会にも提供して下さい。貴重なそれらの情報を広げかりに情報交換や連携、縦横の組織化を模索したいのです。同窓会規約には入会年度

（各期）ごとに委員会を選出して、役員とともに委員会を構成して会の運営を支える」とになっています。（第六条）これが死文化してしまわないように努めてみます。



### ☆其三、会員の叱咤と協力

「今の石神井高校はどうなっているんだ？」

「同窓会は何をやっているんだ？」

「それが、会員であることの根本的なですから。担当している者にとつても同窓生の声は新たな意欲をかきたてる糧となります。出来れば、何年かに一度でも母校に顔を出して下さい。

また、お持ちの住所録に同窓会の住所をお加え下さい。

そして、住所、身分等に変更がありました時は御一報を是非お願ひします。……石神井同窓会を忘れないで。

### ☆其四、会報「きずな」の活用

母校・旧師・旧友を結ぶこの会報「糸」が、全会員にわたる唯一の情報紙であり、忘れていた同窓生であることを思い出させてくれます。

この会報「糸」が連絡の友への連携へとつながって活用され、新たな仲間づくりや同窓会発展の太い糸になればと願っています。

△ムダも役に立つだろうか

会員 大蔵 正哉  
(高元回)

誰にも若き日の思い出というものはあるものとは思いますが、こんなことは、それぞれが勝手に考えることであって、他人がトヤカク言う事ではないでしょう。私どもが、・石神井・という言葉を耳にしたり、目にしたり、思い出したりしたとき、どんな思い出が浮かんてくるでしょうか。石神井を卒業して四十年以上もたつてみると、  
『かつての若さにあふれていた自分』をアリアリと思い出します。ときには階段を登っていて、膝の痛みを感じるとき、石神井のグランドで、思いっきり走ったときのことを見出します。

同窓会の会員の皆さんは、今年卒業したばかりの方々から、人生にくたびれてきている方々までおられます。しかし、各自の若き日の数年間を過ごした石神井の思い出は、善きにつけ悪しきにつけ自分で、思いつきり走ったときのことを見出します。

石神井のときの思い出が、どんなに素晴らしいものであったとしても、いま、それを再現することはできません。時には苦しい思いもあったと思いますが、かなりの年月がたつてみると、それを思い出すことも人生のゆとりの一つになっていると思います。

同窓会の存在は、あまりワラワラとして、かつての若き日の自分を思い出し、また同じ教室で、同じグランドで過ごした友人達が、いまだ生き方をしているか、

いまだなことを考へてゐるかを知ることは、人生の楽しみ方の一つではないかと思つております。

めんどうくさい事ではございませんが、同窓の皆さんにお願いしたこと、いまだに住んでいる

か、(できれば電話番号も)、どんな仕事をしているのか、どんな仕事を考へてゐるか、かつての石神井のことをこのように思い出している、というようなことを

ハガキか手紙に書いて母校(練馬区関町北四一三三一四八)宛にお送りいただきたいということです。

それを『きずな』に生かしたいと存じます。

申し上げ難いことですが、そのための費用を少々ご協力いただきたいと存じます。

平成五年四月九日 神田 植之 氏  
(元美術職員・昭和二七年三月)

## トロサ報

○役員から会員の方々への通信

前回に係るご意見ありがとうございました。

さいました。励まし、お叱り等々いつも、しっかりと読んでくださっている方がいるとの手応えがとても嬉しいです。

これからもよろしくお願ひします。

○同窓会としては、より良いものと成るために、自らにある程度変化を求める事をいたします。詳しいことを知りたい時は、文書にてお問い合わせください。

○五十周年記念誌の感想まつまづ。石神井に対して、五十年の歴史、個人的な思い出等、楽しい手紙を下さい。

又、申し込んだはずなのに、まだ送られてない方なども、ご一報下さい。

○同期会を開催している学年の方一部活動等のサークル活動のグループの方! 各団体の名簿の提供をお願いいたします。

○又、その幹事や世話人の方をご紹介くださいれば、と思っております。

○同期会を開催している学年の方一部活動等のサークル活動のグループの方! 各団体の名簿の提供をお願いいたします。

○又、その幹事や世話人の方をご紹

介くださいれば、と思っていま

す。お考への方もおられると思いま

ので、無理にとは申し上げません。

私は、自分が生きているというこ

とも、かなりのムダではないかと

思っております。しかし、それがムダであるとか、ムダでないとか

は、自分ではなかなか判断するこ

との難しいことではないかと思つています。

『同窓会など全くムダなことよ』とお考への方もおられると思いま

す。それも一つの考え方であつて、それはそれなりに一理があると思

います。

今回は、石神井は自分の人生の一コマであつたという思いの方に、少々のお力添えをいただきたくお願いを申し上げる次第です。

それぞれ、  
『自分の人生は楽しかった』といふ思い出がもてるような生き

方のためにご精進なさいますよう

祈念いたします。

## 会員の方々

四年七月一日から、記念総会を経た同年一月三十日までを今年度特別に決算させて頂きましたので御承下下さい。

○過去一期分の会計報告をさすな紙面上に掲載できなかつたことを深くお詫び申し上げます。

平成四年度の会計数値については、六月の通常総会を十一月の五十周年記念総会へと延期させて頂き予めお断り致します。

なお、特別決算は平成五年会計年度の半期決算となります。平成

四月七日一日起算して、記念総会を経た同年一月三十日までを今年度特別に決算させて頂きましたので御承下下さい。

○過去一期分の会計報告をさすな紙面上に掲載できなかつたことを深くお詫び申し上げます。

平成四年度の会計数値については、六月の通常総会を十一月の五十周年記念総会へと延期させて頂きましたので御承下下さい。

○過去一期分の会計報告をさすな紙面上に掲載できなかつたことを深くお詫び申し上げます。

平成三年度会計報告  
(収入の部)  
前年度繰越金 175,698  
44回生入会金 1,501,500  
雑収入 84,856

計 1,762,054  
(支出の部)  
通信費 51,480  
慶弔費 15,450  
委員会・役員会 45,380  
その他事務経費 49,530

計 161,840  
次年度繰越金 1,600,214  
(自平3.7.1~至平4.6.30)

次年度繰越金 175,698  
(自平2.7.1~至平3.6.30)

《会計 大園 明広(高41)・会計監査 赤津 英俊(高41)》

特別決算  
(収入の部)  
前年度繰越金 1,600,214  
雑収入 2,489  
計 1,602,703  
(支出の部)  
きずな(印刷・他) 378,983  
きずな(発送) 653,317  
同窓会封筒印刷代 191,480  
委員会・役員会 94,605  
その他事務経費 158,741  
計 1,477,126  
次年度繰越金 125,577  
(自平4.7.1~至平4.12.31)

平成4年度会計報告  
(収入の部)  
前年度繰越金 175,698  
44回生入会金 1,501,500  
雑収入 84,856

計 1,762,054  
(支出の部)  
通信費 51,480  
慶弔費 15,450  
委員会・役員会 45,380  
その他事務経費 49,530

計 161,840  
次年度繰越金 1,600,214  
(自平3.7.1~至平4.6.30)

平成3年度会計報告  
(収入の部)  
前年度繰越金 14,985  
43回生入会金 1,627,500  
雑収入 54,699

計 1,697,184  
(支出の部)  
総会費用 222,401  
きずな(印刷・他) 391,898  
きずな(発送) 634,395  
委員会・役員会 155,692  
その他事務経費 187,100  
黒菱分担金 180,000

計 1,771,486  
差損 73,302  
運営資金補填 250,000  
(50周年運営より)

次年度繰越金 175,698  
(自平2.7.1~至平3.6.30)

# 五十年行事錄

去る平成四年十一月七日。  
石神井高校、新体育館にて、五十周年祝賀会が開催されました。  
当日には、三百余名の同窓生の方が出席して下さり、  
ひじょうに華々しく、かつ、なごやかで楽しい会となりました。  
参加していただいた皆様には、

五十年記念同窓会

城 和裕（高二回）

記念行事の準備は、大蔵生哉同窓会会員の招集で数年前から一千名前後の大勢の役員さんが、学校や中野に在る会員宅の天徳院に集まり、記念行事を行つた。行つた

ていましたが、昨年の今頃から学校の記念式典と同日に使う事に正式決定して以来が急に忙しくなつて来て、会合が度々持たれて諸事項が次々と決定されて行きました。

都内8店舗のレストランとケータリングを手がけております関係で、企画提案書を作成、提出し、慎重にご検討いただきた上でお引き受けすることになりました。

つた体育設備に傷をつけるわけにはいきませんので、ここでも石神井同窓生、同期の役員である酒井秀彦氏（大地建設（株）社長）

トやテープを沢山届けて貰いまし  
た。

式典の前日には、役員で同窓生である体育の山下 章先生の指導のもと、現役のバスケット部員にも活躍をいただいて、無事に床全体を覆い敷き詰める事が出来ました。又、学校の卓球台を沢山集めてメインテーブルを作り、そして又、会議用の折りたたみ机でサインテーブルを作りました。

そして、真っ白なテーブルクロスを張つて、新調した黄金色のス



もつと沢山の同窓生の知恵や力を借り集める事が出来たらと思い、それにはもつと集い、話し合い、母校の安定した発展を願う事が、今現在大切だと思っています。

最後に、忙しい時間を割いて御努力いただいた、

学校長や先生方及び役員諸氏のご苦労に対し、重ねて感謝したいと思います。

誠に有り難うございました。

板橋区立板橋二十一五十一  
井上 光子 (高大八回)

練馬区関町北四丁三丁四八  
石神井高校同窓会事務局宛

50周年式典会計報告  
自88.7.1~92.12.31)  
(一部)

<b>(収入の部)</b>	
7-50971振込分	10,658,192
(累積年会費)	
8-413668振込分	3,171,000
(寄付、テレカ)	
振込外収入	1,233,000
(寄付、テレカ、記念誌)	
総額	15,062,192

計	15,035,807
<b>(支出の部)</b>	
委員会事務経費	412,999
委員会通信費	74,552
名簿作成経費	1,336,257
テレカ作成経費	1,702,200
黒菱・同窓会へ 振込手数料	1,100,000
パーティ一費用	40,972
学校へ寄付	2,062,575
学校へ寄付	1,000,000
計	7,729,555
差額	7,304,602
{会計 井上 光子 (高38)}	
監査 赤津 英俊 (高41) }	

石神井高校同窓会規約の変更（案）

第13条 通常会員は入会の際、入会金として 5,000円（3,500円）を納入する。

第14条 通常会員は年会費として卒業後15年間は年額 1,000円（500円）卒業後16年目～25年目までは年額 1,500円（1,000円）、卒業後26年以上は年額 2,000円（1,500円）を納入する。但し、卒業後5年間は納入を免除する。

第15条 本会の会計年度は毎年7月1日（1月1日）に始まり、翌年6月30日（同年12月31日）に終る。

人事		人事		人事		人事		人事		人事	
氏名(職名・教科等)	新所屬等	氏名(職名・教科等)	新所屬等	氏名(職名・教科等)	新所屬等	氏名(職名・教科等)	新所屬等	氏名(職名・教科等)	新所屬等	氏名(職名・教科等)	新所屬等
佐藤哲男 (嘱託員・社会)	一任期満了	中野山崎尾口 堀田澤	劉中村 鯨喜代治	鶴澤津川 喜代治	利夫 駿馬	平成五年度皮 校長	(理科)	小山台高 立戸山高	服部生平 典子	相田啓次 潔次	平成四年度皮 (国語)
佐藤哲男 (嘱託員・社会)	一任期満了	中野山崎尾口 堀田澤	劉中村 鯨喜代治	鶴澤津川 喜代治	利夫 駿馬	平成五年度皮 教諭	(国語)	高山下橋 千章	佐藤三喜 宏作	本橋望月 潔	平成四年度皮 (教諭・英語)
佐藤哲男 (嘱託員・社会)	一任期満了	中野山崎尾口 堀田澤	劉中村 鯨喜代治	鶴澤津川 喜代治	利夫 駿馬	平成五年度皮 教諭	(英語)	高山下橋 千章	佐藤三喜 宏作	本橋望月 潔	平成四年度皮 一一定年退職
佐藤哲男 (嘱託員・社会)	一任期満了	中野山崎尾口 堀田澤	劉中村 鯨喜代治	鶴澤津川 喜代治	利夫 駿馬	平成五年度皮 教諭	(英語)	高山下橋 千章	佐藤三喜 宏作	本橋望月 潔	平成四年度皮 一勤務退職
佐藤哲男 (嘱託員・社会)	一任期満了	中野山崎尾口 堀田澤	劉中村 鯨喜代治	鶴澤津川 喜代治	利夫 駿馬	平成五年度皮 教諭	(国語)	高山下橋 千章	佐藤三喜 宏作	本橋望月 潔	平成四年度皮 一一般退職
佐藤哲男 (嘱託員・社会)	一任期満了	中野山崎尾口 堀田澤	劉中村 鯨喜代治	鶴澤津川 喜代治	利夫 駿馬	平成五年度皮 教諭	(国語)	高山下橋 千章	佐藤三喜 宏作	本橋望月 潔	平成四年度皮 一西高
佐藤哲男 (嘱託員・社会)	一任期満了	中野山崎尾口 堀田澤	劉中村 鯨喜代治	鶴澤津川 喜代治	利夫 駿馬	平成五年度皮 教諭	(数学)	高山下橋 千章	佐藤三喜 宏作	本橋望月 潔	平成四年度皮 一小石川高
佐藤哲男 (嘱託員・社会)	一任期満了	中野山崎尾口 堀田澤	劉中村 鯨喜代治	鶴澤津川 喜代治	利夫 駿馬	平成五年度皮 教諭	(数学)	高山下橋 千章	佐藤三喜 宏作	本橋望月 潔	平成四年度皮 一東大和高
佐藤哲男 (嘱託員・社会)	一任期満了	中野山崎尾口 堀田澤	劉中村 鯨喜代治	鶴澤津川 喜代治	利夫 駿馬	平成五年度皮 教諭	(数学)	高山下橋 千章	佐藤三喜 宏作	本橋望月 潔	平成四年度皮 一白オウ高
佐藤哲男 (嘱託員・社会)	一任期満了	中野山崎尾口 堀田澤	劉中村 鯨喜代治	鶴澤津川 喜代治	利夫 駿馬	平成五年度皮 教諭	(数学)	高山下橋 千章	佐藤三喜 宏作	本橋望月 潔	平成四年度皮 一勤務退職
佐藤哲男 (嘱託員・社会)	一任期満了	中野山崎尾口 堀田澤	劉中村 鯨喜代治	鶴澤津川 喜代治	利夫 駿馬	平成五年度皮 教諭	(数学)	高山下橋 千章	佐藤三喜 宏作	本橋望月 潔	平成四年度皮 一新宿高

（墨山荘のご案内です）

平成五年を迎えて、石神井高校黒菱山荘も同窓会所有による新体制となり、はや七年の月日が流れました。昨年度も数多くの同窓会会員方々に山荘を御利用していただきまして、まことに有難うございました。しかしながら、長い石神井の歴史に比べると、その利用者数はやはりほんの一部に過ぎません。多くの方々は山荘を利用したことがない、又その存在をよく知らないといわれるのが現状ではないかと思われます。特に、元年度より同窓会会員になられた卒業生の方々は、夏山教室、スキー教室廃止後に入学されたので、山荘に対する意識はかなり希薄なのではないでしょうか。是非一度、もしくは改めてこの白馬、八方尾根に足をのばされてはいかがでしょうか。個人の利用はもとより、高校のグラス会やクラブのOB旅行等で利用されるのもよし、最近では家族連れでの利用者や、大学、職場の方々と利用される方も増えてきています。

黒菱山荘は、今まで多くの出逢いと素晴らしい物語を我々に与え続けてくれました。そしてこれからも変わる事なく同窓会会員、及び石神井生の素晴らしい交流の場である為にも、一人でも多くの方に利用していただきたいと願っております。我々同窓生が山荘を利用することにより、山荘が維持され発展していく事を強く願っています。

けると思います。朝焼けの中、誰もいないゲレンデを滑る気分は特に最高です。貸しスキーも一日一式五〇〇円で揃っているので、お気軽に御利用下さい。

山荘を利用出来る期間は、原則として七月下旬～八月上旬、一二月下旬～一月上旬、二月～三月、ゴールデンウィークの間で、山荘O.Bが入荘している期間です。詳細及び山荘利用の申込は、山荘O.Bまで直接御連絡下さい。※申込は、利用される日の最低二週間前までにお願いします。

船に弱い家内は釣り行きは断念する積もりだったが、幸い「こんな静かな日は、珍しいです。」の言葉、どうりの天候に助けられ無事漁場についた。

皆待っていたように釣り糸を垂らしたが、おかしなもので餌もつけられない無経験の家内が真っ先に鯛を釣り上げた。紺青の水から黄金色に輝く魚を引き上げ「早く写真、写真！」と叫び声をあげた快感は、生涯忘れられないのでは近くの浜で「それは刺身で、それは焼いて。」の食べ方で昼食をとるうち、浅瀬にいた人から「綺麗な魚がいっぱいいる。」の声で腰までつかつて熱帯魚と遊び、お腹を上に浮き身、などと時の経つのも忘れる今様浦島であった。

「綺麗な魚がいっぱいいる。」  
釣り上げた快感か、それとも……船に弱いはずの家内も、負けじとコックリコックリやつている。夢は、鯛を釣り上げたこと。体育教師にしては、殊のほか生物に关心が、の自負がある私。ここで生息状態を身逃したら一生悔いが一と思つて、脳手術以来二七年ぶりという水泳で、現場に泳ぎ着いた。

海底に大人の頭大のものがゴロゴロ。どれにも藻が密生し水面にそよいでいた。その一つが口を開けあの特徴ある波形の殻を見せてら一生悔いが一と思つて、脳手術いたのであればすべてシャコ目か。そして海水はこんなにも塩辛かつたかと興奮した。

夜は椰子の葉陰に月の昇るのを待ち南十字星を追うといつた生活の滞在だった。

ここ紫外線は日本の7倍という清潔な空気がつくり出す青空の下、淡青から紺碧と広がる海上に大小いろいろな形のマリモを浮き

この樂園にも大砲、トーチカ、飛行機、船の残骸と戦争の傷痕を見るのである。揃いの帽子をかぶつた先輩のグループに会った。

十四師団（宇都宮）生き残りの兵士達で毎年こうしてこの地を訪れているとのことである。ここでは島民をまきこまなかつた、日本軍の植えたマホガニーが三十年後の今、島の産業に役立てらえようとしているなどの話は一服の清涼剤だつた。

ともかく生きる意義、生きる目標、生きる力を見直しいかされていふ歎ひを嘆みしめたバラオだつた。

帰りの機中から見たバラオはマリモに、グアムの地肌は虫喰いに東京は荒れ地肌に垢やカサブタ

ビルなど）がこびりついたように見たのは僻自だろうか。

（案内は 城 和裕くん  
・高十 瞬）

五十周年記念誌を読んで

長坂 哲夫（中三回）

この度は「石神井の五十年」お送り賜りまして誠に有難うございました。厚く御礼申し上げます。

半世紀前のある日、恩師の方々のお姿、先輩、級友の写真にまきか御対面できるとは夢にも思つていませんでした。毎日、繰り返し繰り返し拝読させて戴いております。

私は、昭和十六年に府立十四中に入学、昭和二十二年三月に卒業致しました。病氣のため休学致したため、中学二回生、三回生の方方に友人がございます。昭和三年生まれで、六十五歳でございます。

私は、当時練馬の学習院と呼ばれておりました、開進第三小学校を昭和十六年三月に卒業いたしました。この時、父は躊躇することなく府立五中や、また自分の勤め

十四中初代校長の丸山先生は、前任校の府立五中（現都立小石川高校）では教頭で数学主任、十四中教頭となられた吉木先生は五中では物理化学主任、国語の今先生は五中では国漢主任でした。いわば我が十四中は、府立五中の主力を形成されておられた方々が、揃つて転出されて、お作りになられた学校でした。この方々こそ、自分の子供の師と仰ぐべき方と考へに命じたのでした。自分の勤めていた府立九中や、また五中の受験等は問題外、師と仰ぐべき方で選んだとのことでございます。この点が、偏差値本位で志望校を選ぶ現在の父兄と、明治の人との相違であろうと思います。

丸山先生は、父の言によれば当時の大校長のお一人であられ、昭和十六年頃に一万坪の大グラウンドを有した学校は一つもなく、十四中が最初でございました。高壯な鉄筋コンクリートの校舎を連ねる石神井高校の現在の繁栄も、五十有余年の苦、戦争中に初代校長丸山先生が、石神井中学の未来のため武藏野の石神井の他に広大な敷地を確保された御卓見によるものでござります。また、先生は石神井中学の健字の精神として石神井精神を提倡され、朝礼のとき一度々、お説きになられました。

丸山先生は、昭和十八年に都立十中（現都立西高）校長に御栄転されたのですが、御不運なことに御着仕後一か月足らずで、化学の実験室から出火、その責任をとらされ、御退職になりました。五年後で某先生の言われる様に更迭させられたのでは、決してございません。今から考えますと、丸山先生が御採用になられた当時の先生方は、戦病死された英語の白山先生はじめいずれも優秀な先生が揃つており、現在の大学教授よりもはるかに優れた先生方と存じま

白衣姿で物理化学の実験をされる吉木せんせい、地下足袋姿の博物の天合先生、園芸の渡部龍策先生のお姿も思い出されます。佐野久校長先生には立体幾何学を教わりました。

中学一年からは、旧制高校の入學試験問題集をテキストとして、吉田寿先生の数学（代数幾何）の補習がありました。四年から一高へが当時の先生方のモットーでございました。陸士（陸軍士官学校）、海兵（海軍兵学校）をお勧めになられる先生は一人もおられませんでした。

青山に校舎があつた頃は、山手線の原宿駅から表参道の櫻並木を歩いて通つたものです。石神井に引つ越してからは、西武池袋線の保谷駅から櫻並木を通り、武藏関にある学校まで歩きました。近回りしてくぬぎ林を抜けていつたものでございます。柔の実を食べたり足下から鶯や山鳴が飛び立つたりグラウンドには野兔がよく出てきたものでございます。

それにして、昭和十五年、十六年、十七年と戦争中の学校の資料がきちんと整理してあつたのには驚嘆いたしております。終戦後焼却処分をした学校が多い中で、先生方の大変な努力の賜と拝察申しあげます。御編集に当たられた皆様のご苦労に心から感謝致しております。石神井の発展、御繁栄を心からお祈り申し上げます。

### 編集室後援期

まず、長坂様。全部入りませんでした。私の計算ミスです。御免なさい。それでも、なんとかご期待に沿うよう努力いたしましたがいかがでしょう？

今、編集では、若くて健康で文章を書いても苦にならない、ワープロ打てる人募集中。あ、あと可愛い女の子だともつといいな。（すでに意識が

（校誌より）